

平成27年度第2回東成区区政会議 にぎわい・きずな部会 会議録

1 開催日時 平成27年8月28日（金） 14時から15時57分まで

2 開催場所 東成区役所 3階301会議室

3 出席者の氏名

【委員】

松山 正樹（にぎわい・きずな部会議長）、中野 壽夫（にぎわい・きずな部会副議長）、
市田 稔子、岡坂 明、岡本 秀男、北岸 佳子、桑田 泰彦、篠崎 桂子、
田中 倬雄、辻 日出子、山本 忠男

【東成区役所】

森本 万喜子（東成区長）、木口 剛一（東成区副区長）、河合 宏成（総務課長）、
笹部 毅（区政推進担当課長）、中浦 進（まちづくり推進課長）、
原 敏浩（地域活動支援担当課長）、
唐谷 栄起（まちづくり推進課まちづくり・にぎわい創造担当課長代理）

4 委員に意見を求めた事項

部会で1年間取り組むテーマについて

5 議事内容（発言者氏名及び個々の発言内容）

○笹部課長 皆様、本日は暑い中、東成区区政会議にぎわい・きずな部会にご出席いただき、まことにありがとうございます。

私は進行を務めます東成区役所区政推進担当課長の笹部でございます。座って進めさせていただきます。

まず、冒頭に区長の森本より一言ご挨拶を申し上げます。

○森本区長 皆さん、こんにち。少しは朝夕涼しく感じられるようになりましたけど、暑い中、お忙しい中、この部会にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

前回の部会のときにお話をさせていただいたのですが、できるだけ区の予算であるとかまちづくりに区政会議の皆様のご議論を反映させたく、部会のほうでテーマを決めていただいてご議論していただきたいということでこの会議を設けさせていただいております。委員の方々のいろいろなご意見をいただけたらありがたいと思っておりますので、どうぞ

よろしくお願いいたします。

それからアンケートをお配りしていますが、区民モニターのアンケートを21日締め切りで部会に間に合わせるため、取らせていただいたものです。少し細かい分析、例えば男女比とか年齢比とかがあればよりご議論の参考になると思いますが、今回は速報版ということで取り急ぎ回答数のみを集計しておりますので、そのところはご容赦いただいてご参考にしていただきたいと思います。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

○笹部課長　それでは本日の部会の開催状況でございますが、にぎわい・きずな部会委員18名中11名の委員のご出席を確認しておりますので、本部会が有効に成立している旨、ご報告申し上げます。

続きまして、本部会の公開についてですが、区政会議に準ずるという形で公開となっておりますので、その点ご理解、ご協力をお願いいたします。

それでは携帯電話等におきましては、マナーモードか電源をお切りいただきますよう、また会場内での通話をご遠慮いただきますようお願い申し上げます。また、傍聴者の方につきましては、写真撮影、録画、録音につきましては冒頭のみそれを認めるということにしたいと思いますので、ご協力よろしくお願いいたします。

本日の資料についてですが、今年の8月に先ほども区長から案内がありましたように区民モニターアンケート調査を行いまして、その中間結果の速報版も出ておりますので議論のご参考という形でご利用いただければいいと思います。ついてはその点につきましてもご紹介させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以降の部会の運営につきまして、松山議長に進行をお願いいたします。

○松山議長　はい。皆さん、こんにちは。議長の松山です。本日は、大変お忙しい中、ご出席を賜りまして、まことにありがとうございます。前回6月の部会に引き続きまして、今回、今期2回目のにぎわい・きずな部会、ただいまより始めさせていただきたいと思います。また、今回も前回同様、活発でそして前向きなご意見を頂戴いたしたいと思います。できるだけ有意義な部会にしていきたいと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。それではちょっと座らせていただきます。

本日の議題、テーマでございますけれども「にぎわいづくり」でございます。本日の議題につきまして、区役所のほうから資料の説明を受けた後に皆さんのご意見をいただきたいと思います。短い時間でございますので、できるだけ多くの皆さんのご意見をいただきたいと思います。どうかご協力のほど、よろしくお願いいたします。

それでは区役所よりお話のございました区民モニターアンケートと、部会テーマに対す

る事業についての説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○笹部課長　それでは区民モニターアンケートの結果でございますが、資料3をごらんください。「平成27年度第1回区民モニターアンケート結果（速報版）にぎわいづくりについて」という資料ですが、この資料は問1から問12までさまざまな設問を設けてアンケートをとっております。特に問1から問6までがいわゆる商店街に関する設問となっておりまして、問7、8がモノづくりに関しての設問、問9から問12が各種イベントに関する設問というような形となっております。

それでは具体的な内容に移ってまいりたいと思います。

まず問1「あなたの思う東成区における「にぎわいのあるまちづくり」とはどのようなまちですか」という設問に対しての回答でございます。下のグラフにありますように、モノづくりや各種イベント等を差しおいて「区内の商店街や店舗に活気がある」というのが非常に多くの回答となっております。

続きまして、問2ですが「商店街でどの程度の買い物や飲食などを利用しますか」という設問です。これにつきましては、先ほどありますように週2、毎日、あるいは週に3回から4回、週に1回程度と言われる方々が非常に多いというような形となっております。

問3が「商店街を利用する理由で当てはまるものは何ですか」という質問に対してですが、1番多いのはやはり接近性ということで「近くに商店街があるから」というような回答、あるいは「そこでしか買えないもの、もしくは飲食できないものがある」というのが多くの回答を占めているというような状況でございました。

問4が、先ほどの問2におきまして月に一、二程度の利用、もしくは年に数回程度の利用、もしくは商店街を利用しないという方々に対しての問いかけですが、「余り利用しないのはどうしてですか」ということに対しての回答です。1つには「近くに商店街がないから」という方が33人と最も多く、続きまして「品物や好みの飲食店がないから」というのが32人という結果となっております。

問5が「商店街の情報をどのようにして得ていますか」という問いかけに対しましては、やはり「新聞折り込みのチラシ」が多く155人と、次いで「町会などの地域コミュニティを通じた横のつながり」でありますとか、「掲示板などのポスター」というような形となっております。ホームページ、ツイッター、フェイスブック等は非常に回答率が低い結果となっております。

問6が「あなたが思う商店街に期待するところはどの様なところですか」というようなことに対しましては、やはり「品質等に対する安心感」が118人と最も多く、続きまして「商品が揃う」、あるいは「身近である・人とのふれあい」があるというような回答とな

っております。以上の１から６が、いわゆる商店街に関連する設問でございます。

続きまして、モノづくりですが「東成区は大阪でも有数のモノづくりのまちであることを知っておられますか」という質問に対しましては、「知っている」あるいは「ある程度知っている」という方を合わせますと161人でおおむね７割近い方々が既にご存じであるという結果となっております。

問８におきましては「モノづくりのまち」であることに関心を持ってもらうためには、「参加したい」あるいは「活用したい」を含みまして、何を利用したらいいでしょうという問いかけに対しましては、「モノづくり体験イベント開催」が117人と最も多く、続きまして「工場見学ツアー」あるいは「モノづくり企業紹介の冊子を作成する」という答となっております。

次に問９ですが「参加したことがある区内のお祭りやイベントは」という問いかけに対しましては「地域主催の夏祭り・盆踊りなどのイベント」が152人と最も多く、続きまして「区民まつり」が136人という結果となっております。

次に問10で「区内で実施しているお祭りやイベント情報をどのようにして得ているか」という質問に対しましては、やはり「地域コミュニティを通じた横のつながり」いわゆる口伝えで伝わってくるような情報というのが非常に多く、続きまして「行政による広報」、これはツイッター、フェイスブックといういわゆるデジタル情報を除くとありますので、やはり区政だより等の媒体を通じた形での情報というのが非常に多いという結果となっております。

問11では「区内実施のお祭りやイベントの良いところや期待するところはどの様なところですか」ということに対しましては、「家族や知人・友人と一緒に楽しめる」が149人と最も多く、次いで「無料もしくは実費程度の安価で参加できる」、「子ども連れでも参加しやすい」という回答となっております。

最後に問12で「区内で実施されているお祭りやイベントをより魅力的にしていけるためにはどのようにすればよいか」という問いかけに対しましては、「お祭りやイベントの周知・PRを工夫する」が106人で最も多く、続きまして「子ども連れでも参加しやすい内容とする」、「運営にあたり、様々な人の意見を反映する」という回答結果となっております。

以上が区民モニターアンケートの速報というような結果でございます。以上です。

○中浦課長　続きまして、私まちづくり推進課長の中浦でございます。私のほうから東成区で取り組んでいる事業について、ご説明させていただきたいと思っております。

まずアンケートの順番でいきますと商店街、モノづくり、イベントということになるう

かと思しますので、まず商店街のほうからご説明させていただきます。商店街につきましては、特に東成区独自ではなく、担当部局としまして市の経済戦略局が所管をしているところでございます。その経済戦略局では、毎年、商店街にハード面やソフト面での助成事業が行われ、ソフト事業の中には、商店街に対してコーディネーターを派遣する事業などを行っております。

そういった事業がある中で、近年、商店街の活性化というなお話がありまして、今年度から新規の事業ということで資料4のほうをごらんいただきたいのですが、アンケートの次につけておりますけれども、地域商業活性化推進事業というようなことが今年度から始まっております。これは書いてあるとおりなのですが、商店街団体と、商店街団体だけではなくその周辺の地域の方々や団体を結びつけるネットワークづくりを支援しているというようなところでできた事業でございます。聞くところによりますと、他都市における活性化が行われている商店街においても、景気の動向や大型商業施設の進出等、商店街はかなり厳しい状況にあり、他都市の事例等を調査したことを踏まえてこのような事業が今回、新規の事業としてつくられたというふうに伺っております。そういった調査の中で市内商店街の衰退化が進行する中で、やる気はあるのに活性化に向けて何をしたいのかわからないといったことであるとか、実行する人は十分でない等の理由で活性化に向けた取り組みができていない商店街が多く存在するといったことに対することから先ほど言いましたように、運営上の仕組みをつくっていただくというものでございます。

今年度からということで、先ほど申し上げましたように次のページをごらんいただきたいと思えます。こういった資料がついているかと思えます。縦の写真がついているかと思えますけれども、実際に今年度こういった取り組みで事業をしていくといったところが北区の商店街、大正区、鶴見区、住之江区、平野区、西成区といったところが今年度実施していくというふうに聞いております。こういった取り組みが大阪市全体の一つとして行われているというところをご紹介させていただきました。

続きまして、モノづくりに関してでございますが、特に資料はございませんが、東成区の特性といたしまして、住居と工場が隣接していたり、混在しているところに鑑みまして、住工の相互理解の観点からさまざまな事業をこれまでも実施してきております。「わが町工場を見てみ隊」ということで子どもたちに近隣の工場を、ふだんは通行するだけで一体何をつくっているのかわからないので、実際に見学に行こうというツアーを年2回ほど実施しております。またモノづくり体験をする機会を、今年の2月に一度区役所の1階ふれ愛パンジーで実施をいたしましたところ、結構お子さんが来られまして200名ほどになりました。結構反響があったのですが、そういったことも踏まえまして今年度も若干拡充を

していく予定にしております。また、さらに加えてそういったモノづくり企業が集積しており、高い技術力があるので、区内もちろんですけど区外にも発信していこうということで、新規事業でモノづくりの会社、企業をご紹介するというような取り組みを進めているところでございます。その媒体としましては、1つはパンフレットで、もう1つは視覚的に訴えていこうと映像の制作をしてYouTubeに上げて、誰でも見るることができるようなものを今つくっているところでございます。

イベントに関しましては、1つは先ほどのアンケート調査でもありましたように、区民まつりを実施しているところは皆さんご承知のとおりだと思います。あと11月に行われております「ひがしなり街道玉手箱」でありますとか、それに合わせて「深江歴史文化まつり」。あとお子さんたちを対象にして自然と触れ合う機会を創出するというので「しぜんふれあいフェスタ」を今年は10月末ごろ開催する予定にしております。もちろん各校下では、連合町会が夏祭りを実施したり、冬の行事を実施したりとさまざまなイベントを実施されていると聞いております。

大体、大阪市や東成区が実施している事業の紹介をさせていただきました。

○松山議長 はい、どうもありがとうございました。ただいまの中浦課長のほうから説明がございましたけれども、これから意見交換を行ってまいりたいと思います。

何かご意見、あるいはご質問ございましたら挙手をお願いしたいと思います。

もしなければ指名させていただいてもよろしいでしょうか。

まず辻委員、どうでしょうか。

○辻委員 もうちょっと考えてみます。

○松山議長 何かわからないようなところ、ちょっと疑問のあるようなところでも、区役所に尋ねたいというようなところがあればお願いします。

モノづくりのほうから桑田さん、よろしくお願いします。

○桑田委員 ひがしなり街道玉手箱に関してなんですけども、もともと「わがまち推進会議」から始まって、かなり発展しているということはうれしいことだとは思いますが、ただ今回も何回か区役所の方にもお話ししましたが、誰が責任者で、誰が会計をしているのか、そしてその会計報告がどうなっているのかということを質問しますと、まともな回答が返ってきませんでした。そういうところに区役所から委嘱状を渡していると聞いておりますが、その辺の責任の明確化というのはどういうふうになっているのでしょうか。

○中浦課長 区役所のほうの予算といたしましては、広報支援ということで、広報に関するような事務業務について予算化をしております。それとともに事務局の支援ということで、いわゆる区民さん方に先ほど委員のお言葉にありましたとおり、委嘱をさせていた

だいて企画委員会をつくっていただいて、いろんなところのネットワークをつなげていくという役割を担っていただいております。企画委員会が自立していただくことをコミュニティビジネスというふうに言っておりますけれども、それをめざしていくという大方針がありますので、その支援をしていく委託を我々は事業者に行っているということです。全体の事業といいますのは、さまざまな事業をネットワークして、ここに記載したマップのように、いろいろ独自でやられているイベントをつなげていく、こういった広報紙であるとかホームページとか、そういった政策の部分で区役所の予算というのが使われているというふうに認識しています。ただそれ以外プラスアルファで当然企画委員さんの方々も動くのにいろんなお金がかかっているというところもありますので、それらも含めていろんな企業さんたちに対して協賛を得ているというような状況です。それらの活動全体が予算と考えております。

○桑田委員 その予算もないようですし、会計報告もないようですが、何か去年の会計報告はありますか。

○森本区長 まず市の予算は会計の報告をきちりしないといけないので広告費に使っていくか、事務局がさっき言いましたどのような支援をしているかという報告は受けております。先ほど課長が少し申しましたけれども、それ以上に例えば後援とか協賛費用とか、事務局で去年でしたら企画運営として委嘱している人たちが動いている分に関しましては、市の会計ではないので報告書は持っておりません。

○桑田委員 それも区から補助金を出すとしたら相手に対して、そういう会計報告を必要としないのですか。

○中浦課長 委託事業者に対して支払っていますので委託事業者からの報告です。

○桑田委員 領収書だけですか。

○森本区長 領収書と実施内容の報告はもらっています。去年の場合と今年は少し違うのですが、去年は動いている人たちの支援の事務局としてお金を出していましたので、どういうことをしているかということを経理局がつかんでおく必要があり、内容的な報告はいただいていると思います。

○桑田委員 今年は何か会費を集めるというような話だったので、そういうふうにするのだったら、今までは広告費という形で募集しておりましたけれども、その会費を集めるとなったらやはりちゃんとした会計報告がないといけないのではないかな。

○森本区長 はい。

○中浦課長 済みません、そういう会費は恐らく任意だとは思いますが、会費を集めるということであれば、今後しっかりと会計報告するにはメンバーには伝えていき

たいと思います。

○桑田委員　　そういうことにちゃんと区役所がバックアップしているという形で出ているのに、そんないいかげんな会費の募集の仕方とか、僕はそんなことをしているのではちょっとうちでは参加できませんと断りました。

○森本区長　　わかりました。委嘱をする際に、こういうことをしてくださいと、きっちり協定を結んでいます。だから桑田委員が心配されている指導ができているかどうかという点では、指導権限があると思いますので、きちんと申ししていくようにいたします。せっかくずっと盛り上げていただいているのに、ご心配をおかけして申しわけありません。

○桑田委員　　それとこういうイベントへの参加者の保険の問題とか、どういうふうになっているのか、何もわからないような状態で寄附を求めて回っているような部分があったので、言わせてもらいました。

○森本区長　　大切なことで、その話の中で申しわけないですけど、実はすごく発展してきたので、小じんまりとやっているときはよかったのですが、今のご心配の例えば責任の問題であるとか保険の問題であるというのを、少しかたい問題で申しわけないですけど、市のリーガルチェック的なこともきっちりと今年受けまして協定を結んでいたりと、保険のことも整理しています。それについては課長が一番詳しいと思いますので、担当からご説明をいいでしょうか。

○松山議長　　一応東成区を代表するイベントの一つに育て上げようというのが東成区民の願いでございますので、その辺をしっかりとしていかなければ空中分解もあり得るというようなことでございますのでどうぞ。

○森本区長　　よろしいですか。

○唐谷課長代理　　今回のひがしなり街道玉手箱につきましては、先ほど説明のありましたように運営事務局という方たちに我々委嘱をさせていただいております。それとは別に実行委員会という各種イベントをしていただく、ここでいいますと「深江歴史文化祭り」の実行委員会とか、そういったところで各種イベントをやっていただく方、あとはそういうイベントに参加していただく方ということで、大きく3つの団体があるというふうに考えますと、まず委嘱しているチーム、それと実行委員会に関しましては協定書の中で保険に入っていただくということでクリアしていこうと考えております。

もう1点、イベント参加の方に関しましては、それぞれ自己責任ということでお祭りに出てけがをされたりとかというところは弁護相談をさせていただきまして、例えば道路が陥没していて事故が起きたというのであれば、役所側の責任になるのですが、それ以外のところに関しましてはイベント参加者の方の責任になるということで、リーガルチェ

ックはさせていただいております。そういうこともありまして、今年度につきましてはリーガルチェックをして、クリアしているのではと思いますけれども、今区長からもありましたようにだんだん規模が大きくなってきていますので、次年度以降はさらにいろいろな方にも保険に入れるようにちょっと勉強していきたいと思っております。

○松山議長　中野さんのほうからちょっと深江歴史文化祭り、実行委員会のほうからちょっと補足していただきたいと思います。よろしくお願いします。

○中野副議長　今、桑田委員さんのおっしゃったことに関して僕は全然、深江だけの問題でお答えはできないのですが、一番組織が大きくなってきて、活動が大きくなってきてお金が要するというのは、これは当たり前です。今度、協力費が何かで1万円の寄付のお願いを言うてきております。そのことですね、おっしゃったのは。僕もあれよくわからないので今聞いていただいて、ありがたいと思っておりました。

それと今保険の件で、唐谷君がおっしゃったけどイベント参加者というのは当日見学に来られた人も対象になるのですか。

○唐谷課長代理　イベント参加者に関しては、今は保険の対象にはなっておりません。

○中野副議長　それで今度はなるといえることですか。

○唐谷課長代理　いや、だんだん大きくなってきているので、その辺はちょっと。

○中野副議長　それでボランティアしている人はみんなボランティア保険に入っているけれども、見学に来られた人はどうなるのかという問題が発生するのではないかという思いでおります。

○唐谷課長代理　そこについては今年度、保険には入ってないのですが、次年度以降は何かしらできないかということで、今ちょっと勉強させていただいております。

○中野副議長　うちは入っておりますので、多分入れると思うのですが。ちょっと勉強していただけますか。

それと、よろしいですか。今、資料いただきましてモニターということでこの結果報告をいただきました。一番気になるのは2ページ目、問1の中で回答として「区内の商店街や店舗に活気がある」ということですが、これは例えば商店主さんが大変今泣いておられます。もうからない、はやらないということでシャッター街になってきている。これとどういように比較したらいいのかと思ひましてね。このアンケートではすばらしい結果で出ているのですけれども、商店主が泣いておられて、店が閉まっていく。そのことに対するアンケートは全然とれてないのではと思います。お客さんを対象にとられたアンケートではないかと思っています。それにはちょっと疑問を感じております。

○木口副区長　これはどうでしょう。問1「あなたの思う東成区におけるにぎわいのあ

るまちとは、どのようなまちですか」というのは、やっぱり地域じゃなくて商店街がにぎわっていたら地域もにぎわっていると、そのようなまちであると。実際は違うけれどもということでもよろしいですね。

○笹部課長　そういう意味合いです。この回答は現状をあらわしているということではございません。

○森本区長　どういうまちがにぎわいのあるまちかと思えますかということですので。

○松山議長　やっぱり商店街に活気があれば、そのまちがにぎわっていて、商店街がちょっと閑散としているところは元気がなくて良くないという意味ですね。

ほかににぎわいをもたらすということでこのひがしなり街道玉手箱もあると思いますし、商店街が頑張っているところもありますし、頑張ろうとして頑張れないところもございまして、ほかに何か意見、ご質問ございませんでしょうか。

それでは北岸さん、まだ早いですか。

○北岸委員　私のところは商店街がありませんのでこの話題には入れないのですが。

○松山議長　意見としては余計いいのではないですか。

○北岸委員　はいそうですね。

○松山議長　北中道ですね。

○北岸委員　北中道は商店街が全然ありませんから、買い物などはスーパーに皆さん行っておられる。

○松山議長　今、にぎわいということだから。

○北岸委員　だから北中道は商店街も何もありませんけど、独自の活動をしていけばいいと思っております。うちのところの年間の行事の中で、皆さんが集まれる場所と思って、お祭りとかハロウィンとかいろいろな催しはしております。

○松山議長　玉造のほうの商店街は北中道ではないのですか。

○北岸委員　大体今あの地域は、モールか何かできているから、あの方向を向いてはちょっと行くことはありますけど。

○松山議長　疎開道路の玉造側には商店街があったのですが。

○北岸委員　もう全然ないですね。そういうふうに北中道は大きな企業も余りありませんし、独自の予算を立てて活動をしていこうかということで、ハロウィンをしています。これは一つお地蔵さんからヒントを得て、お地蔵さんで子どもがお菓子をもらえるのを何かということでハロウィンパーティになったのです。第1回目に予算をいただいてやっていたら盛り上がり過ぎて、今度からは地域でお金を用意することになってしまいました。でも子どもさんはみんなお孫さんが多方面に行っても帰ってきて、自分のところの地

域を練り歩いて、自分たちが「お父ちゃんがここら辺にいてたんよ。」というので孫を連れてちょっと行っております。やっぱり、いいか悪いかわかりませんが、スタートはそういうことで行っております。

○松山議長　もう何年目ですか。

○北岸委員　今度で3年目ですね。

○松山議長　やっと軌道に乗ってきたというような感じですかね。

○北岸委員　それでも最初は、けがをしたらどうするのですかとか、疎開道路を歩行者天国にしてほしいとかという話もあったのです。ですがそんなことできないのではということで、みんないろいろな発想を若い人らと一緒に、毎回会議を重ねてハロウィンに向けて頑張っておられます。

○松山議長　ありがとうございます。

岡本さん、今里が東成区の中で、一番これからも頑張ってにぎわいづくりをしてもらわなければならないというような地域なのですけども、いかがでしょうか。

○岡本委員　そうですね。商店街をまともに抱えておりますので、本当に商店街をしっかりやってもらいたいと思うのですが、まだ最近でも空きになったところがありますし、一般住宅に変わっていったような状況がちょっとこのところ続いています。商店街のほうもしっかりとその辺我々と一緒に考えてもらいたいと、いつも商店街側には投げかけてはいるのですが、まだ一緒に協議するところまではいっておりません。それとやっぱり北中道さんのお話があったように大型店舗ができてきますと、どうしてもそちらのほうに流れがちになります。その一つの弊害が商店街を自転車で通る人が多いですし、事故も最近またふえているようです。そういうことも踏まえて、もう少しそういった本当に利用者のことを考えてお店をやっておられるのかというのが一番の疑問で、絶えずその辺のところは声を出しております。何分商店主も高齢化してきましたので、なかなか前向きなというか、やらなければいけないのはわかっているというような話でいつもとまってしまう。そういうところを何とか崩していきたいと思っているのが現状です。

○松山議長　商店街の一番大きな問題というのは後継者がいない、後継ぎがないということで、実際は仕事があれば、あるいはもうかっていたら後継者はおのずとできるのでしょうけど、周りに大型店舗、いろいろな複合施設ができてきてそれに押されてというのが現実でなかなかそれを越えられない。それを先ほど中浦課長のほうから説明があった商店街と一緒に考えていくというか、昔はイベントをやっても「そんな花火を打ち上げて客もそのときだけで来ないのに何になるのか。」と言われていました。今は花火も打ち上げなかったら、忘れ去られてしまうのと違うかというような、それほどにちょっと商店街が

後退しているというのは端っこのほうに行けば現実です。その商店街の元気のなさが地域に響いてくるので、どうしても地域の元気を出すために、その商店街団体と地域の人や団体等を結びつけるネットワークづくりを支援し、活力ある地域社会の実現を図るというこの活性化推進事業は、非常にすばらしいものだと思います。これの問題を具現化するために、その旗振り役に商店街の責任者をつかまえてきてやれというのも、なかなか無理なところがあります。どなたか何か感じておられること、あるいは質問でも結構ですのでお願いしたいと思います。

田中さん。

○田中委員　さっき会長が言われたように、確かに僕は今里ですので、今里以外のことは余り詳しく知りませんが、今里の新道一つ考えるとやっぱり高齢者、この高齢者というのはなかなか頭がかたくて、なかなか若い子は溶けにくいように思います。何か若者と疎遠になっているところがあるんです。それと建物の所有者の問題もあって、やっぱり借家が多いですからなかなか建物の前自体がきれいにならない。ちょっと今の状態では若者は寄りつきにくいのではないかと思います。ということはやっぱり所有者の問題になりますから、なかなかそういうことでジレンマに陥っているのは事実やと思います。ちょっと思い切って年配の方が力を入れればよいと思いますけどね。やっぱりそういうことで新道も衰退していつているので、道一つも一遍洗って見たらどうかと言うてます。そこが余り前向いて行かないのです。商店街の会長さんがその気になってもらわないといけない。空き家のところは地域でしますけど店舗前ぐらいは綺麗にできないのかと思います。魚屋さんならにおいますから、すんなり洗っていますのでやっぱりきれい。それ以外の高齢者店主のところでしたら、やっぱり汚いです。ぱっと見たイメージが暗いのです。

○松山議長　普通の商店の一番基本的なところですよ。個人商店だと、後ろのいすにかけ置いてはいけません。やっぱりお店の前に立って、掃除もして陳列もちゃんとして、一番基本的なところをちゃんとしないとお客様も前を通っていても、見向いてくれない。

○田中委員　それと店でも同じ種類が並んでいるところはいいです。一つ例をとると、北中道の神社の前、ずっと東に来て、商店街があります。北中道に入る地域は肉屋さんが離れてない中、3軒もある。やっぱり新道商店街では余り肉屋さんがいないのです。やっぱりあそこに行ったら、いい物がある。やっぱり欲しいものがそろうということです。

○北岸委員　あそこも店主所有のものですね。

○田中委員　所有しているところは、そうしてみんな生き残ってやっていますけれども、やっぱり賃貸でやっていけば家賃が高いからそれに負担がかかり過ぎてやり切れないから出て行く方がいるわけです。今里の場合を見ていたらそうです。

- 北岸委員 お肉だけはあそこにみんな行きます。焼肉とかホルモンとかです。
- 桑田委員 欲しいものがそろうものですから、つい私とこもいつでもあそこに行きます。
- 岡坂委員 値段的にも安いですし。
- 田中委員 やっぱそれは数扱っているから安いのと、やっぱり昔ながらの、目の前で切ってもらって、買ってくるというその感覚、スーパーみたいに盛ったものでなくて、「これ切りましょうか。これで行きましょう。」という感覚です。
- 岡坂委員 好きなだけ切ってくれますから。
- 田中委員 それがいいとかいうような感じです。
- 北岸委員 そういうふうな売り場にすればいい。焼肉を売っている店で。
- 田中委員 この間、その中本の病院の前のライフができたところに行くと、魚屋さんのような実演販売をしているから、たくさん買っていました。なるほどこれはうまいことやっとなという感じがしました。
- 北岸委員 今里さんでもいい魚屋さんがあるから、私は魚買うのにそこに行きます。
- 田中委員 新道の魚屋さんはいいです。
- 北岸委員 ああいうふうにみんなが目をそそるようなお店をやらないといけません。
- 田中委員 やっぱり店、店が努力すれば、客は寄って来る。それを言いますけど、やっぱり高年齢になってくると難しいと思います。
- 中野副議長 現状、現実をみんなちょっと寂しい話ばかりになってきています。それでしたらどうすればいいかというのをこれから考えていけばいい。どうして人を呼び込むとかいうような話をこれからすればどうかと僕は思います。ということで、さっき北岸さん。うちは商店街がないから云々という話。そのとおりです。そのとおりですけど、できたらみんな一つ一緒になりながら相談していきたいと思います。
- 北岸委員 商店街づくりですか。
- 中野副議長 商店街づくりではなく、今商店街はなかなかつくれません。自然につくれるのが商店街ですから。というのは人を呼び込んで、入ってくれば商店街は勝手にできますから。それを呼び込むにはどうしたらいいかというのを考えていったらどうかと思います。ここに「地域商業活性化推進事業」と書いてあります。この事業を我々はどう取り組むかということを考えていけないといけないと思います。それと北岸さんがおっしゃったように、地域を一遍に活性化しようと思ったら難しいです。商店街があるところと商店街がない中央大通り沿いとか、これ分別しながらまちづくりを考えたらどうかと僕は考えています。

それともう1つ、テーマとして環状線沿いの玉造、鶴橋、環状線沿いを一つの地域として考えて、そして商店街を中心に北と南と分けてというような考えをもって物事は進めていったほうが取り組みやすいのではと思います。一遍に東成区と言えなかなか考えられません。ということは、例えば南地区の商店街を考えた場合、我々深江と神路と今里と、それとちょっとへこみますけど片江というような感じになります。それから環状線沿いというたら、東小橋、中道、北中道というような感じであります。南やったら東中本、宝栄、それから中本というようになります。そういうふうに区分しながら考えていってまちづくりを、にぎわいときずなのまちですから、きずなにおきましてはまちづくり活動協議会が十分に活動しております。まちづくり、にぎわいについて我々は考えようという思いであります。私らもそういうふうな取り組みを考えるのが好きなもので、私の話が全てではないです。皆さんの話と合議をもって活動していこうというのが、この会ですので私の案として聞いていただいたら結構かと思います。

それではどうすればいいかという考え、私は南のほうで商店街、深江、神路、今里ということで幸いにして暗越奈良街道という街道があります。それを活用しながら人を呼ぼうと、今新聞紙上をにぎわしているのは観光です。これ、今言う話は今日明日でできる問題では決してありません。3年がかり、5年がかりというような感じで取り組んでいけばいい。そのためにはこのメンバーで賛同を得ながらプロジェクトチームをつくっていった活動していけば、それも我々だけでやるのではない。もちろん行政と一緒にやっていきたいという思いであります。そういうようなことを考えていったら、前を向くのではないかと、いつまでも現実を話していると前に進みません。

例えば深江の場合、あった商店街が、何年か前にはなくなりました。それから深江のアポロ、この間閉めました。ということで暗い話ばかりです。人が来ないからそういう暗い話が生まれるのです。だったらどうしようかというのは、考えています。東成区の区政会議において、東成区をどうしようと考えた場合、やはり人を呼び込むということが一番ではないかと思います。もちろん桑田さんがおっしゃった話もそうなのですが、イベントにつきましてはまちづくり活動協議会にお任せするという感じで、我々は新しいプロジェクトをこしらえながら、せっかくこれだけのメンバーがいっぱいいるんですから、取り組んでいったらどうかと思います。努力したらできるのではないかと、僕は思っておりますけれども、月日のかかることでございます。「じゃあ、やろうではありませんか。」というような声が上げれば、また取り組んでいけばどうかと思っております。それにつきましては具体例も考えております。

○松山議長 ありがとうございます。

○辻委員　今里の地域は一戸建ての高齢者の方が非常に多いです。そういう高齢者の人たちが頼りにするのはやっぱり商店街だと思います。道路を越えて元気な方はライフに行かれるでしょうけど、道路を越えて阪急ストアぐらいまではいいですけど、それ以外はやっぱり商店街の中でお買い物してらっしゃると思います。だからそこにどう働きかけるかということが第一で、新聞の折り込みを見ますとスーパーばかりですけど商店街のお店の折り込みなんていうのは余りありませんね。100円商店街のときはいっぱい人があふれるほど行ってらっしゃると思いますので、そういう広報活動も大事だと思いますし、「きずなづくりではにぎわい・きずな部会に任せてください。」というふうにおっしゃられましたが、それはそうだと思いますけど、そういう中でも商店街を活性化するためにどうするか。

○中野副議長　我々の問題でしょうね。

○辻委員　うん、やっぱり議論しながら、大事なものは東成で言えばやっぱり新道商店街というのは中心になると思うのです。あれだけ長い、いろいろと空き店舗はたくさんありますけどね。でもやっぱり商店の人たちがやっていてよかったなと思えるような援助をするべきではないかと、運営上の仕組みづくりをこの「地域商業活性化推進事業」の中ではマッチングしながらですよ。しかも団体も掘り起こしてということですから、これをやっぱり東成でどう実現しようかということは、区役所も一緒に考えていけばいいと思います。やっぱりお年寄りの人が頼りにするのはスーパーも買いやすい、みんなそろそろいいと思うのですが、商品の質に関してはやっぱり個人の商店のほうがかちとしたものを売ってらっしゃると思うのです。大変難しいですけどその辺に自信持っていて頑張ってほしい。借家であって、地主さんがなかなか空き店舗でも貸してくれないとか、貸さないというような、問題の解決というのは何かないんでしょうかね。

○中野副議長　それは我々のメンバーです。我々のメンバーが立ち上がらないと誰もやりません。商店へ行って、「あなたとこ店をしてください。」と言っても絶対しません。もうからないから。もうかつたらしめます。ですからどうして声かけていこうか、人をどうして集めようかということをやっぱりシャキッと考えないといけないということで、確かにおっしゃったようにお年寄りはその店が閉まってしまうと途方に暮れています。「どこに買いに行ったらいいの。」と相談をかえって受けますね。うちは今度深江の元市場であって、アポロというスーパーがありました。この間、8月で閉めたのです。そのお客さんが「どこに行ったらいいの。」って、今言うようになりました。大きな道を挟んで向かいに行かないといけないということになってきてますから、それを元に戻そうと思っても「あなたとこ店をしてください。」と言っても、しない。これは事実ですからね。

それどうしたらいいのかということで、人が入ってきたら必ず商店はできると思うのです。人が動くようなことを考えていかないといけないと思います。

○辻委員　　そこでいっぱいイベントをしたらよろしい。

○中野副議長　　単発ではいけません。やっぱり始終何かやってないことには人は寄ってきませんからね。

○辻委員　　まち協（地域活動協議会）はほとんどイベントばかりずっとやっています。

○中野副議長　　それは東成区内で回転しているだけです。その中で、イベントしていて商店ができていくのだったらそれでいいですけども、イベントのときは人が集まるけれども、イベントが終わったら商店街がガランとしています。その一番の例が岸和田です。

○辻委員　　年がら年中、何かをするというような。

○中野副議長　　とにかく魅力のあるまちをつくるということに目をつけてね、魅力のあるまちだったら人が集まってきます。どうして魅力のあるまちをつくるのかということをやったり議論として進めていく問題ではないかと思います。

○辻委員　　アンケートを見ていても、やっぱり商店街が活気のあるのが一番重要やという声が市民の皆さんの中から圧倒的に出てきているわけですから、それにどう答えていくのかというのが大いに各地域でまち協とか声を出して考えないといけませんね。

私はこれを見ていて、区民まつりはいいですけど、街道玉手箱というのは相当人を集めて実行委員会をつくってやっていらっしゃいますでしょう。しかし認知度は低いですね。三十何%、おっしゃったとおり決算の収支報告もないというような問題もありますし、こういうところというのはビジネスをするような場所にもなってきますので、余計にきちんとした管理をしていかないといけないのではないかと思います。

○松山議長　　ある時点までどうしても細かなところが言いよって、自分のところだけの会計報告みたいなのをしているという感じで、隣の組織には何の情報も伝わらないというのが現実ですけれども、今年から3日から8日まで日にちも随分長くなるということで、これからはおっしゃるように一本筋を通していかないといけないということはあるですね。

それとやはり年中イベントをやればいいというのはなまじ間違いではなくて、本当はそんなに元気な商店街はあるのです。年中やっている、月に1回は必ずやっている、あるいは2週間に1回は何かのイベントみたいなことをやっているという商店街は実際あるし、また今日本で一番長い商店街といわれる天神橋筋商店街でも一時はだめになりかけたというような時期があったのですけれども、今はまた横にいっぱいできていて、若者がびっくりするぐらい裏難波なんて聞いて、二、三遍は行ったんですけど、どこが裏難波はよくわからないというような、天神橋筋の裏側のことを思ったらまだ寂しいかなと。天神橋

は今すごい商店街、大きい商店街ではなくて裏手が、すごい通りでそれも若い人ばかり。今物販というのですか、右から持ってきたものを左に売るといえるものはなかなか難しいところがありますので、どうしても一つ加工するとか、自分でつくるとか何か一工夫、二工夫やっぱりしていかなないと、人の気を誘うことができないというのが現実であります。また、お年寄りが多いというのは現実なので、新たな空気を外から持っていかなないと、なかなか振るい立たせることができないと、できたらお膳立てを、どこまでお膳立てしなければいけないというぐらいのお膳立てもしていかなければならないかもわかりませんが、そのぐらいして一旦上昇気流に乗るとやっぱり商店街の活性化というのは大いにあり得ると思っております。現実には現実ですけども、何かほかにいいご意見がありましたら、篠崎さん、いかがでしょうか。

○篠崎委員 私不思議に思うのですが、お店が閉まってまた新しい方がお店をします、改装してね。そういうところはまた潰れて、また違う店ができて、それでまた何か月後したらまたそこが閉まってしまう。それはやり方もあると思いますけど、それが長続きしないというのはどうしてかという中で、やっぱり商店街で運営していたらアーケード代、家賃も払わないといけなところ。それと商店会費、だから結構売上がなかったら商店街でお店を新しくするというたら、なかなか大変だと思うのです。だからやっぱり固定客なりそういう人がいなかったら、こうやって潰れてまた新しいあれになるのかなというふうに思いますけどね。ほとんど神路なんかもうお店は閉まっていて、この間今里のビス（スーパー）の前の「よしや」か、お菓子屋さんも26日で閉まりましたけど、そのところのニシカワさんの薬局屋さんは10年契約で次に契約しようと思ったら10年間しないといけなというようなこと、あの辺は割とそういうのが多いと言っていますね。高齢化になったら、これからの10年というのはなかなか、そうでないと貸さないというような感じで、だからやっぱり商店街で商売するということはそのように家賃だけでなく、商店街費とかアーケード代も払わないといけなというのはきびしいです。それでアーケードもあればすごく暑いので商品も腐ってきている。八百屋さんとか果物屋さんとかそうやってアーケードで暑いからビスとかそういうクーラーが入っているスーパーに買いに行くから、余計商店街では買わないというようになると思う。

○北岸委員 お店が開いていないからです。心斎橋通りはアーケードあったって、道を通ったら涼しいですよ。というのは店がみんなクーラーを外に向けて出しているから、あの道は涼しいです。だけど、その今里の商店街は店があかないし、お店をしているところとは違うと思う。

○篠崎委員 しているところは前を通ったらすごく気持ちいいですけど、してないところ

ろはもうムツとする。ほんとに今里、神路は店がなくなってきましたね。だから活性化どころか。

○岡坂委員　ずっと家主さんが別々のところがあるからね。だからなかなか貸してくれと言ってもスツとはいかない。

○桑田委員　その辺、今シャッターのおりているお店の内情というのは各商店街さん、全部つかんでいるのですかね。お年寄り夫婦がまだ住んではるところとか、お店だけで貸しているところとか、地主だけになっているとか、ちょっとその辺も一回調べてみて、もし協力的なところがあれば安く貸してもらおう交渉をするとか、それで若い人に、それこそ金土日、週に3日だけでもいいというような感じでの自分の店を持たせてみるとか、何とか今シャッターが閉まっているというのが一番貧しく感じてしまうので何とかシャッターをあける方法を考えたほうがいいんじゃないかと思いますけどね。

○北岸委員　それ生活に関することですから、私らが頑張ったってどうもできません。

○岡坂委員　それでオーナーさんの子どもさんがもうそれが嫌で出て行っているから、残っているのは年寄りだけでいつまでやれるかということで、なかなかそうしてあきやすいのでしたら使おうかと言って、入ってくる人もなかなか出てこない。

○田中委員　聞いてみたら、どうしても借り主は出て行くときにいくらか滞納していくものですから、権利金をたくさん取ろうとするわけです。それで入らないのです。ですから個人で持っているところなんかはそういう貸しをしないと、1日貸しというて、その毎日、毎日の契約で貸しているところもある。なかなか地主は地主のやっぱり言い分もあるのです。これ難しいところですね。ですからその地主があれだけ資金あるのですから一肌脱いでもらえばいいと思うのですが、なかなかそれはやってくれない。我々の考えでやっぱり、その人らはその人らの持論というのを持っているから、なかなか難しい。

○桑田委員　その辺は行政のほうで特別契約みたいな、普通の民法上で借りたら、借りたほうが強くなってしまおうとか、いろんなことがあるのでしょうけど、その辺を何かもっと簡単に貸し借りできてまちにいてもらえるというようなことを。

○田中委員　結局は、やっぱり客を寄せないといけないということが第一歩の原則ですね。

○北岸委員　でもスーパーに負けます。個人商店はスーパーに負けます。

○田中委員　負ける。ですからどうしたらいいかということをやっぱり。

○北岸委員　そこから考えてもらわなかったら私らの力では絶対無理と思う。

○山本委員　それが一番原因ですよね。大型店ができたから個人がね。

○辻委員　大型店はもうからなければすぐに撤退しますよ。

○北岸委員　　するけど、にぎわい。別に商店街にこだわらなくても地域で何かにぎわいのね。

○岡坂委員　　その大きな、1か月か2か月はいいと思っても、いけない思ったらすぐに撤退、やめてしまう。

○辻委員　　地元にお金が落ちてこない。

○松山議長　　ありがとうございます。全体として言えることは、昔からその地域、地域の伝統文化、芸能、あるいは文芸、いろんなものを担ってきたのは一時期にやっぱりそのまちの商店街ということもございましたし、やはり今でもお祭りなんかも推進には一翼を担っていただいております。本当に地域が廃れてくるということで、この地域商業活性化の推進事業が取り組みの具体例というところがございます。地域商業の活性化に係る協議会等の開催、あるいは商店街を含めた地域マップ、広報誌の制作、あるいは地域団体等と連携したイベントの開催等ということでございますけれども、これに関しまして、何かご意見ございませんでしょうか。やはりもういけないというのは嫌というほどわかっておりますので、なかなか大きなスーパーに勝とうと思ったら、向こうは専門的にいかにしたら物が売れるかというのを考えている部署もありますし、それを個人で全部考える、それに対抗するというのはなかなか難しいところがありますけれども、例えば先ほど出ました肉屋さんであるとか、鶏肉屋さん、こういうところはご飯屋さんというんですか、そういうところはスーパーで買っていたら毎日同じものが買えるとは限らない。だからまちの肉屋さんであるとか、地鶏なんかも売っている、私そこは阿波の何とか鳥とか、扱いませんとか、そういうところはまちの商店で買いますけれども、野菜なんかも実はそういうのがあるんですけど、なかなか食べてみて一般の方がわからないということで、つついスーパーに押されてしまっているという現実もございます。そういう現実を何とかということで考えていただきたいと思います。

じゃあ中野さん、済みません。

○中野副議長　　今、読み上げていただきましたように取り組みの具体例にありまして、これを活用させていただきますと、地域商業の活性化に係る協議会等の開催、この開催におきまして、その地域の商店街を含めた地域マップ、広報誌の制作とか、地域団体と連携したイベントは考えていけると思うのです。だからこの地域協議会等の開催、設立です。この辺はさっきお話ししたとおりですけど、やっていったらまた一つは解消にはいかなくても何かの方向づけはできるのではないかと思いますけれども、これに対しては本当に前向きに本気度を出しながら活動しないといけない。忙しいからできないとかいうこともありますけれども、ここに書いている開催について取り組んでいくのでしたら、取り組んで

いけばいいと思います。これは区役所のほうから提起していただきましたけれども、思いとかいうのについてお話できます。

○中浦課長　これは基本的に商店街の一団体が手を挙げて公募していると、経済戦略局でやりたいというところがあれば手を挙げてくださいねということで募集をかけております。先ほど言いましたように、手を挙げていただいたのが実際は7団体ありまして、そのうちの6団体が今年度選定されたというような状況になっております。

○中野副議長　ちょっと待ってください。協議会等の開催というのはその方たちの開催ですか。

○中浦課長　まず商店街団体さんが手を挙げていただいて、選定をされて決まりました。その次は、あそここのコーディネートをするところの、これも事業者委託をしております。今年度はJTB西日本さんだったと思いますけれども、入られてその商店街の周辺の地域団体にも声をかけて取り込んでいって一緒に、ここでは協議団体と書いてありますけれども、そういった協議をする組織をつくっていくと。まずはここから始めていって、何をしたいのか、どうしたいのかという方向性、方針、計画を立てていくというのを役割として、そういう事業者がコーディネーター役として入っていくというようなスキームになっております。ですからそこからマップをつくったらいいいのではないかと、イベントをすればいいのではないかと、地域のところでは若い方がおられるとか……。

○中野副議長　済みません、「ここから」というのはどこですか。

○中浦課長　どこからというのは、団体と各地域の団体をつなげていくというところから始めていく。

○中野副議長　「ここから始めていく」ということは、これのことですか。

○中浦課長　この制度です。

○中野副議長　わかっています。「ここから」というのは、この会議のことですか。それとも商店街のことですか。区役所のことですか。

○中浦課長　この制度の話をしております。

○中野副議長　だからその中で、「ここから」ということは、これからですか。

○中浦課長　ですからまず始まるのは、やりたいという団体、商店街がおられるかどうかから始まるという。

○中野副議長　違う、僕はこの区政会議で何をするのかと。決定権がないから何もできません。これはようわかっています。どこでまとめるのかという問題で、ちょっとお話を聞きたいと思っているのです。

○辻委員　商店街が手を挙げなければ、何もできないということになりますね。

○森本区長　だからこの地域商業活性化推進事業というのは、大阪市がつくった制度でこれを利用するのでしたら、これと全く同じ事業は区のほうで立ち上げられません。例としてご説明差し上げたのはこういうこととしてメニューにあるので、例えばこういうことならできるというのを、区と一緒にやるとか、そんなことはできるのではないかなという例かなと思います。極端に言えば、この制度いいのではということでどこかの商店街が来年手を挙げるのに、こういうことだったら地域と一緒にできるのでは、というようなことを少しだけでもメニューで出していただいていたなら、そういうのに基づくこともできるのではないかとということで、例えばこれにやってくださいというのはちょっと無理になります。

○松山議長　ここに書いてあるのも、一応申請しなければいけないということで、本当に何かしたいけれども活動する人もいてないし、どうしたらいいのかもわからないというところがなかなか手を挙げるというのは難しいのです。だから今区長がおっしゃった前段階、商店街の何人かここに来ていただいて、僕らちょっと地域としては商店街にしっかりしてもらわないと、地域もよくなれないと一緒に考えていかないかぐらいのところから始めて、それならコーディネーターを一遍頼みましょうかと、僕らだけで話ししていても進まないし、よそはどんなことをやっているのかもちょっと勉強しましょうということで、そこから連携をして何かやっていくというふうなことでもしない限り前へ進んでいかないというのが現実かなと思います。商店街も実際手をこまねているけれども、動いていることは確かです。まだ死んでもいてないし、まだ息もしている。何かしたいけれども、ここに書いてあるとおりやっぱり主になってやってくれる人がいないし、申請といっても今の助成金をいただくということになってくると、イベントでも何でもやった後、アンケートもいるし、その後の経過報告もしなければならぬというのを一人で責任をかぶってしまうと、ちょっと大き過ぎて手を挙げにくいというのが現実です。でも、税金を利用する以上、全部それをしなければならぬというのが現実なので、それをちょっとみんなで分けられできないことはない。申請とか何とかかんとかというのは商店街の人間が一番苦手とするところだけれども、例えば役所の人、行政の人は書くのは苦にならないとか、役割分担していけば何とかできるのではないかと思いますけれども。本当に、各委員、あるいは各商店街の責任者、いろんな悶々とした考え方を持っているのですけれども、なかなか前へ行かないというのが現実で、そのうち年をとってきて、もう閉めていいかというふうになってきているのが現実なので、ここに支援とか連携とかNPOとか、地域団体とか本当にみんな考えてやらなければならぬと、ここの1階のふれ愛パンジーでもそういう会合をして、少しでもヒントが出ればいいと思います。

どうでしょうか。ほかにもしご意見なければ、今のようなことをにぎわいづくりということで、各人、また考えてきていただいて何か本当に東成区のにぎわいづくりに貢献できるようなこと、一つでもできればいいし、行政のほうにお願いできるようなことがあればと思います。

○岡坂委員　明日ですが、あそこの新橋通がそのイベントをやって、「わくわくサタデー」というのを。

○山本委員　それはこれに入っている。

○中浦課長　「わくわくサタデー」は助成制度でコーディネーター派遣というのがあると申しあげましたけれども、それでやられて始まったと思うのです。

○岡坂委員　もう何遍もやっているからね。年に2回は最低やっていると思う。

○山本委員　ほとんど食べ物屋さんの会ですからね、普通のお店はほとんどないです。豆腐屋さんぐらいのものですかね。

○岡坂委員　それもやはりお客さんが来て、普通500円するものを半値で食べさせて、やっぱり寄ってきているのは寄ってきています。あのスタンプラリーというのがあるから。

○松山議長　新橋通りは区商連を抜けておられますけれども、まだ一番抜けられた中でそういうイベントを、もう何年前からでしょうか。もう随分たちますけれども、ずっと続いておられますね。連盟に入るというのもなかなか上部組織もございますし、一件一件の会費がばかにならないということもありまして、若い人たちはそのお金があれば自分たちで道を切り開くということで、今新橋通りは若い人たちが中心になって、そして役所関係の方たちの力もお手伝いいただいて、年に2度ほどやっておられるのかな。地域も相当お手伝いしているみたいですし、大成地域はすばらしいと思っております。

もし何かほかにご意見なければ、今日はこの辺でと思いますけど。

はい、どうぞ。辻さん。

○辻委員　そういうことは新道商店街ではできないのですか。

○松山議長　いやいや、できないことはないですよ。

○辻委員　申請したら、コーディネーターさんが来られて、やろうと思えばできるわけ。

○松山議長　コーディネーターの派遣はどの商店街でも大阪市内、大阪市の戦略局へ手を挙げていただいたら。

○辻委員　やったらいいのと違いますか。

○松山議長　いや、難しくはないです。

○岡坂委員　今里のほうは多分100円商店街というのをやっています。年何回かね。

○松山議長　今年は年3回になったのと違うかな。今まで年4回やっておりましたけれ

ども、これは商工会議所が提唱いたしました100円で物を売るだけじゃなくて、商店の中にまで入っていただいて、ほかの商品もいろいろ見ていただいてというようなやつが本当は基礎にあるのですけどね。本当は、いつものやつをいつものご愛顧で100円で提供するという事業ではないのです。表面的に見たら100円商店街、100円で物が買えるということだけれども、その根底に流れている100円商店街の根本的な考え方、真髄というのは100円で買っていただくけれどもほかの物も見ていただいてふだんの……。

○岡坂委員　結局プラスアルファでね。ほかのものも買って帰ろうかと。

○辻委員　人寄せですね。

○岡坂委員　みんな百均に行って1個だけ買ってくるわけではない、行けば1,000円ぐらい使ってきているよね。

○篠崎委員　でも内容が悪くなっていると言っていますね。やっぱり年数、長いことしていますから。最初のころから比べたら100円と言っているけど、やっぱり物が悪くなったり、すぐなくなるとかね。数が余りないというような、ですから悪い方向の意見も出ています。

○松山議長　中には100円商店街でたくさん人が集まるから、それで利益を出そうというところもあるし、でもこのごろイベントなんかも絡めて相当やっておられるみたいですし、もう一度100円商店街の理念というか、ちょっとそういうところをもう一度おさらいをしてみたらいいかなと僕なんかは思っているのですけれども、余り言うと怒られてもぐあい悪いとなりますので。

○辻委員　まねをするというのは大事なことですな。

○松山議長　そうです。これならばうちの商店街でできるという一番初歩的な勉強の仕方ですので、他地域のやり方、売っているものだけではなくて運営の仕方なんか他都市見学会とか他の商店街にいろいろそこに行くというのは、そういうことですな。運営の仕方もなかなか難しいです。

○田中委員　それも店主の、いわゆる店を出している主の年齢層が上がり過ぎてしまって、やっぱり我々ぐらい一生懸命やっている時分の世代が一番よかった。もう亡くなりましたから。

○松山議長　それは商店というのは、やはり一番前に立ってお客様に呼び込みというか、商品を見ていただいて、それがどういうぐあいに見えるかというのも自分で意識しながらこざれいにして、今ちょっと年とった人だと後ろのほうでいすにゆっくり座っていて、前に立っても何か言うまで立って行かないとか、それではなかなか物は売れない時代ですね。特に、それだったらスーパーに行ったほうが早いというふうになりますし。商店街といっ

たらプロの集まりでございますので、スーパーには決して負けてないと思うのですが、ついそういう物を売る戦略に負けてしまっているのは確かでございます。

次の機会にまた、もう少し建設的な意見をいただきたいと思いますので、皆様、今日はこれでということで、ありがとうございます。

それでは役所のほうにマイクをお返ししたいと思います。ありがとうございました。

○笹部課長 はい。非常に深いテーマにつきまして、熱く意見を交換していただいたと思います。議長を初め委員の皆様方、スムーズな議事の進行にご協力いただき、ありがとうございました。

本日いただきましたご意見につきましては、今年度の区政運営や来年度の運営方針の方向づけ等に参考とさせていただきたいと思います。また、秋には来年の予算でありますとか、来年の運営方針の素案等についてのご意見をいただく区政会議も予定しておりますので、そちらのほうへのご参加もよろしくお願いいたします。

長時間にわたりましたが、本日はどうもありがとうございました。

—— 了 ——

6 配付資料 添付のとおり